

## 自己評価報告書(最終報告)

コース等名

人間形成コース

記載責任者

山崎 勝之

## ■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

## I. 学長の定める重点目標

## I-1. 大学院の学生定員の充足

貴専攻・コースにおける過去5年間の大学院学生定員充足状況を分析・検証し、達成目標を設定するとともに、どのような具体的方策を立てて、目標達成に向けて取り組んでいくかを示して欲しい。

## 1. 目標・計画

人間形成コースの過去5年間の入試合格者状況を見ると、定員の15名に対して、平成19年度24名、20年度23名、21年度20名、22年度27名、23年度32名と着実に受験者および合格者を集めてきている。ことに、23年度は前後期合わせて第一志望の受験者だけでも42名に及び、たとえ入学辞退者が多くても合格者32名を教員定員のわずか5名で指導していける状況ではない。このままでは、むしろ教育の質の確保のためにも教員定員に応じた合格者数に限定し、不合格者を多く出さざるを得ない事態となる。執行部側の早急な対策をお願いしたい。

## 2. 点検・評価

2012年度の受験生・入学生は激減した。この原因はコース内で検討しているが、様々な原因が指摘され、根拠をもって原因が特定できていない状況にある。今後は、入試に直接的にかかわる広報活動ならびに学生への教育・研究の質をさらに高めたい。

## I-2. 学生支援の取り組み

学生の卒業時・修了時における「質」保証のためには、常日頃から学生に対する支援を推進していくことが必要である。  
貴専攻・コースにおけるこれまでの学生支援の取り組み状況を分析・把握し、本年度どのような学生支援の取り組みを行うか、具体的な方策を示して欲しい。

## 1. 目標・計画

I-1との問題とも密接に関連し、本コースではこれまでも少ない教員定員のなかで学生支援の充実に努めてきた。ことに長期履修学生の増加に応じ、教育実習の事前指導にコースの教育経費を負担して現場の教員に依頼したり、学生の子どもの交流体験の機会を設けるために地域の学校との緊密な協力関係を築いてきている。今年度は、さらに一層教育委員会ならびに学校との教育研究協力を推進するなかで、学生の教育および研究の両面における資質の向上に努めていきたい。

## 2. 点検・評価

目標・計画どおり遂行できた。長期履修学生への対応、現場との接触機会の確保、教育委員会との連携等、いずれにおいても上記の目標・計画を順調に遂行、達成した。

## Ⅱ. 分野別

### Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

近年、本コースの入学者の多様化が進み、退職後の生涯学習者、カウンセラー、社会人・ボランティア経験者など種々の出身学部 of 卒業者に加え、個々人の学習のニーズも多様化してきている。コースの教員の側も、こうした学習ニーズの多様化に応じた研究テーマの設定や、研究室運営や変更の弾力化など、学生がより自己にニーズに合致し、より快適な学習環境を整備していきたいと考えている。実際、KDDIなど民間企業とも共同研究を進め、種々の研究教育の場を通じて学生の研究テーマと経験を広げてきている。

## 2. 点検・評価

目標・計画どおり遂行できた。学生の教育・研究ニーズの多様化に柔軟に対応することができた。研究面以外での学生の要望の多様化は想像以上に顕著になりつつあり、この点への対応をさらに高めていくことが、次年度以降求められるものと予想する。

### Ⅱ-2. 研究

#### 1. 目標・計画

本コースの各教員は、それぞれの分野で国際的および全国的な研究・共同研究を鋭意進めており、それらの研究成果も学術論文だけでなく、国内外でのシンポジウムや講演、研究・研修会、放送大学の全国放送などを通じて公表してきている。本年度は一層のこと、こうした研究活動と成果の公表に努める。また、一人教員だけでなく、指導学生やコース修了生とも共同研究の機会を持ち、学会発表や紀要への投稿で研究活動の拡がり活性化をはかる。

## 2. 点検・評価

研究の国際化や共同化は著しく発展し、グローバルな視点で研究を推進できた。

## Ⅱ-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

本コースの各教員は、学内の各種委員会において責務を果たすばかりでなく、徳島県はじめ各市町村の教育委員会、さらに文部科学省および関係機関の各種委員をも務めて、鳴門教育大学の有用性と存在意義を高めている。

### 2. 点検・評価

各種委員会における責務のみならず、徳島県や県内の市町村の教育委員会、また文部科学省との接点と共同を多様かつ充実化させることができた。加えて、徳島県立図書館協議会委員など学外での委員も務めている。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

### 1. 目標・計画

付属学校に対しては、各教員の専門性に応じた研究教育上の指導を行うとともに、積極的に教育問題解決のための共同研究を実施する。  
国際交流については、教員各自の立場で本学の国際交流に寄与する。ことに、平成23年度からは本学がユネスコスクール大学支援ネットワークの四国の拠点として各種セミナー・研修会を主催するのに尽力する。また、教員研修留学生等本学に学ぶ留学生に対する講義・指導でも協力する。

### 2. 点検・評価

附属小中との連携、共同研究はもとより、アメリカ、イギリス、中国等多くの国との共同研究等を達成し、ユネスコスクール大学支援ネットワークの四国拠点としての活動も円滑に進めた。とりわけ附属学校との連携は充実していた。他には、留学生を対象とした講義等も実際に担当した。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)